

## 年度評価シート

課名 観光・MICE推進課

施設の名称 静岡市東海道広重美術館	指定管理者名 特定非営利活動法人ヘキサプロジェクト
1 履行状況	
<p>令和4年度は、指定管理期間（令和3年度から令和7年度までの5年間）の2年目である。指定管理者は現期間以前から指定管理者を継続しており、令和4年度で通算10年目となる。</p> <p>指定管理業務は、業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>（1）維持管理業務</p> <p>建築物及び建築設備の保守点検、施設内の清掃、備品管理等を日常的に実施したほか、専門的な知識又は技術を必要とする「空調設備保守点検業務」、「昇降機保守点検業務」等の維持管理業務を第三者に委託して実施した。修繕については、本市と協議の上、「消防用設備修繕」、「2階廊下絨毯張替」等6件を実施した。また、収蔵する美術作品の管理について、善良な注意義務をもって適切に維持管理を行った。</p> <p>（2）施設入館者数</p> <p>令和4年度の入館者数は16,766人で、指定管理期間最終年度である令和7年度の目標値24,500人に対して達成率68.4%、年度目標値20,000人に対して達成率83.8%で、いずれも達成できなかった。（※参考：令和3年度入館者数13,484人、年度目標値19,800人、達成率68.1%）</p> <p>前年度比では入館者数は3,282人（24.3%）増加したが、新型コロナウイルス感染症流行前の平成31年度（19,955人）比では16.0%減と完全な回復には至っていない。感染拡大の波や客船の寄港停止によるインバウンド旅行者の減少が影響したと考えられる。</p> <p>（3）事業実施状況</p> <p>展覧会及び関連事業については、事業計画書に従って適正に実施されている。</p> <p>ア 主催事業（展覧会事業）</p> <p>令和4年度は、5回の展覧会事業を開催した。5回の展覧会は収蔵品の展示を中心としながらも、学芸員の調査・研究の成果を総合的に活用しつつ、県内他施設や企業等からの作品借用、静岡市歴史博物館や大河ドラマ館などとの連携、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」「どうする家康」に関連した展覧会の開催など、様々な切り口で浮世絵の文化と美術館の魅力の発信に取り組んだ点は評価できる。</p> <p>特に大河ドラマに関連した企画展「家康と東海道」は目標値（3,800人）の106.8%と高い入館者数を記録しており、学術的価値はもちろんのこと、浮世絵の魅力を他のコンテンツと融合させて集客力を意識した企画をいかに立案できるかが重要である。</p> <p>【展覧会の内容及び入館者数】</p>	

- (ア) 江戸名所四日めぐり ～南・西・東・北 日帰りたび～  
(会期：4/1～7/10 (Part 1～3)、入館者数：4,371人)
- (イ) 浮世絵で学ぶ日本史 源平の争いと鎌倉幕府  
(会期：7/12～9/11 (Part 1～2)、入館者数：2,997人)
- (ウ) 広重と国貞 ～二人の絵師が描いた東海道五十三次～  
(会期：9/13～11/13 (Part 1～2)、入館者数：2,880人)
- (エ) いろいろ魅せます 五十三次！  
(会期：11/15～1/22 (Part 1～2)、入館者数：2,461人)
- (オ) 家康と東海道 ～どう描いた広重～  
(会期：1/24～3/31 (Part 1～2)、入館者数：4,057人)

#### イ 関連事業及び教育普及事業

関連事業では、夏休みの小中学生を対象としたワークショップ、展覧会の展示替えごとに行う学芸員のギャラリートーク、専門家による講演会等を開催した。

教育普及事業では、浮世絵や版画の魅力発信や新しい顧客層の獲得を目的とした「スクールプログラム」や「出張講座・ワークショップ」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、各プログラムの規模については縮小を余儀なくされた。令和5年度の事業拡大を期待したい。

##### 【主な関連事業及び教育普及事業】

- (ア) ギャラリートーク：11回、78人
- (イ) 団体向け展示解説：334人
- (ウ) 講演会：1回（駿府と徳川家康）、17人
- (エ) 出張講座：2件（学校1件・一般1件）、148人

#### ウ その他

他の博物館等との連携企画や各種地域団体への協力等、集客や浮世絵文化の普及を意識した活動を行っている。特に、地域の施設・団体が協力して由比地域の活性化に取り組む「ゆいまるプロジェクト」にプロジェクト設立当初より参加しており、令和4年度はプロジェクト主催のゆいまるマルシェ（6月）、ゆいまるフェア（2月）のイベントに協力した。地域住民や観光客に親しまれる歴史街道まち歩きの拠点として、各種事業に取り組む姿勢は評価できる。

また、同敷地内の由比本陣施設の指定管理者とは、市所管課を含めた3者による連絡協議会を毎月開催して情報共有・意見交換に努めている。

## 2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切に対応し、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに対応・検討するなど、良好な対応がなされているといえる。具体的な意見・要望と対応状況は、下記のとおりである。

- (1) 意見：開館時間に本陣公園の正門が開いていなかった。

対応：正門の施錠は由比宿交流館の担当のため、意見の内容と改善の要望を由比宿交流館へ伝達。あわせて美術館でも開館時間前に開門を含めた開館準備状況の確認を行うことで再発防止に努めている。

(2) 意見：観覧順路がわかりにくい。

対応：特にわかりにくいと指摘のある小展示室の案内看板を設置した。加えて、エントランスホールの企画展看板の館内見取り図に観覧順路番号を記載している。また、令和4年3月にデジタルサイネージを導入し、館内案内を行っている。来館者からの直接の質問にも丁寧な案内を心掛けている。

(3) 意見：他の来館者がうるさかった。表示を大きくしてほしい。

対応：私語に関する注意喚起はエントランス入口と大展示室入口に設置している。また、状況に応じてスタッフが注意喚起を行っている。

### 3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

#### (1) 利用者満足度調査

展覧会ごと、施設入館者に対して、館内に設置した投書形式の利用者満足度調査を行った結果、展覧会及びその他常設展示について、「とてもよかった」、「よかった」と回答した割合が86.4%と、目標の80.0%を上回った。今後、展覧会内容の更なる充実等による満足度の維持・向上に期待したい。

(参考) 展覧会満足度：90.9% 常設展示満足度：82.0%

#### (2) 市民アンケート

当課所管5施設（東海道広重美術館、由比本陣施設、清水港船宿記念館、坐漁荘記念館、三保真崎グラウンドゴルフ場）で実施しているアンケート調査によると、施設の認知度は45.3%と昨年度に及ばなかった（※参考：令和3年度は52.4%）。所管課も協力して公共施設等へのチラシ配架など広報に取り組んでいるが、指定管理者には、引き続き認知度向上及び集客に向けた取組の工夫を期待したい。

### 4 指定管理者の経理状況の評価

原油価格・物価高騰に伴う光熱費上昇および新型コロナウイルス感染症の影響による入館料収入減に対し指定管理料の補填を行ったが、指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおり執行されており良好である。

### 5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

本施設は、同一敷地内の由比本陣施設とともに、「江戸時代を感じさせる、まち歩きの拠点」として、市の第4次総合計画の主要施策である「駿州の旅日本遺産推進事業」や「東海道歴史街道まち歩き推進事業」において重要な役割を担う施設である。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり目標入館者数の達成はできなかったものの、他の施設・団体との連携を展覧会事業及び施設運営に活かし、様々な切り口で幅広い層への浮世絵文化の魅力の発信に努めている点は評価できる。

また、利用者の希望に合わせた展示解説を行うことにより利用者の満足度向上に努めるとともに、市内だけでなく富士市、富士宮市といった市外の小中学校にも広報活動を行うなど、本施設のファンづくり、幅広い世代への浮世絵文化の魅力に触れる機会の提供に力を入れており、引き続きこの取組を推進してほしい。

由比宿にある浮世絵文化を発信する美術館として、「東海道歴史街道まち歩き」を意

識した集客力のある企画展の実施、幅広い世代や客層へのPRを通じ、更なる入館者数の改善に期待したい。